

7月16日 逍遙



今日7月16日は、薩摩藩主・島津斉彬が急逝した日です。7月8日、斉彬は炎天下の鹿児島・天保山での城下諸隊による軍事調練を閲兵後、翌日から発熱・下痢となり、15日の夜から容体が急変、翌16日未明に急死しました。

一方、斉彬の手足となって、將軍継嗣問題などの工作のため京都の近衛家や水戸藩、福井藩などとの連絡等に奔走していた西郷隆盛は、京都で斉彬死去の悲報に接し、茫然自失。帰国殉死を決意したものの、京都清水寺の僧・月照（のち、西郷と共に錦江湾に入水し自殺）らの説得で思いとどまります。

今の時代、このような関係性は勿論あり得ないでしょうが、そこには、時代の変化を敏感に感じ取り、揺らぎのない方向性を自らの言動で明示しながら、人材の育成と活用に努めた上司の存在と、その上司に対する厚い信頼の下、自ら考え実践に移した部下の存在があったのでした。人と人の近接性が制約を受けるコロナ新時代のこれからは尚更のこと、このようなごまかしのない信頼関係に基づく理解と共鳴の有無が事の成否を左右するのかもしれませんが。

次回「新しい解を求めて、のこころ」

「信頼と共鳴は  
この時代にも、  
このころ」